

会派視察・研修報告書

会派名 公明党

代表者名 寺島 芳枝

1 日にち	令和6年7月16日(火)
2 視察先 研修名、主催者及び会場	埼玉県鴻巣市 市役所
3 参加者	寺島 芳枝 片山 竜美 工藤将和
4 調査・研修の テーマ	「教育 ICT 環境整備による 児童生徒の学力向上と教員の働き方改革」
5 主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムによる教員の働き方改革の推進 ・「SINET(サイネット)」を活用したフルクラウド環境の実現による授業改善と子どもたちの学力向上 ・「鴻巣市学校教育情報化推進計画」達成に向けたあゆみ
6 所感、提言事項、課題等	<p>【寺島芳枝】 埼玉県のほぼ中央部に位置し、人口11万7千人、小学校 17 校、中学校 8校を要する鴻巣市。 令和 2 年契約満了を前に、これまでの機器整備で本当によいのか。ネットワークの分離による煩雑さなどの課題がある中で、これが本当に学校のあるべき姿なのか？教師にとって働きやすい環境なのか？という問題意識から、児童生徒と教職員の利用のしやすさを考えた環境を実現させた。 コンセプトは、「先生も子どもも PC を文房具のように、いつでもどこでも使用できる」こと、そのために多数の新しいことに挑戦！することだった。 当時の教育長、市長も替わっており、葛藤や苦勞、思いがうかがえなかったのは残念であったが、成果として、フルクラウド化、3 層分離撤廃(ゼロトラスト導入)、テレワーク環境整備、校務支援システム刷新等々が実現。働きやすい環境を整備したことで、学校も変わってきた。授業の質の向上、子どもと向き合う時間が増えたなど、最も重要なことが実現している。是非本市においても、取り組んでいただきたい。</p> <p>【片山竜美】 鴻巣市は、令和2年8月に、ICT 機器の賃貸借期限が満了となる前に、令和元年学校教育情報化推進計画を策定。基本理念に「ICT 機器の活用により、新しい時代で活躍するために必要な資質・能力育成する」を掲げ、全国に先駆けて子どもたちの未来のために、「教育 ICT 環境整備」に力を入れている。その特徴は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムのフルクラウド化により、教員の働き方改革が行われ、勤務時間が減り、子どもたちに向き合う時間が増えた。 ・ 子どもたちも先生も「PC を文房具のように、いつでもどこでも使用できる」ように、意欲的に活用している。 </p>

- ・ 各教室に電子黒板を配置し、子どもたちにとって、より分かりやすい授業改善を行っている。
- ・ PBL 学習(いわゆる課題解決学習)が推進され、子どもたちは、自発的に自分が知りたいことを研究し、提言などを行っている。
- ・ 子どもたちは、PC からアクセスし、自由にドリル学習などができる(実際に子どもたちの学力は伸びてきているそうです)。

このうち、校務支援システムのフルクラウド化については、これにより、「校内の予定・勤怠記録・文書管理・学校日誌」はもちろん、「成績・出欠・保健記録・指導要録・テスト」などすべてが電子化され、教員の働き方改革が進んでいるとのことである。

多治見市でも ICT 教育に力を入れており、県内ではかなり進んでいると感じている。子どもたちもPCを文房具のように使いこなし、先生方も大型モニターやデジタル教科書などを活用して、より分かりやすい授業を展開しているが、校務支援システムとなると、まだまだのように思う。

鴻巣市では、導入にあたり、教員に理解を得るのに苦労されたという話を伺った。便利であることは分かっているが、不慣れなことや安全性への不安などからどうしても踏み出せないことも理解できる。なお、こういった仕組みを整えるのに、民間企業の力が大きく、同市はプロポーザルにより、(株)内田洋行のシステムを採用し、多額の費用をかけている。

簡単に導入できるものではないが、子どもたちの未来と教員の働き方を考えると、一考すべき点もあると思った。ただ、このようにICT機器を充実させ、教員のゆとりを生んでも、不登校数は増えており、よりよい対策を模索しているようであった。やはり全国的な課題である。なお、マルチメディアデジタイズ教科書を採用していると聞き、うれしく思った。

【工藤将和】

鴻巣市は、「ICT 機器の活用により、新しい時代で活躍するために必要な資質・能力を育成する」を基本理念として、(株)内田洋行、インテル(株)と提携し、ICT 化を促進した。

中でも、子どもがICT 機器を使って利用する、知識習得のためのアプリや、情報共有するネットワーク、繰り返し練習できるアプリなど、学ぶ楽しさを向上させてくれるツールが、とても印象的であった。

また、セキュリティを強化し、フルクラウド化により、校務支援システムが刷新され、これにより先生が、子どもの出欠、通信、テストの採点などいつでもどこでも作業できることで、残業時間の削減に繋がり、空いた時間を子どもと向き合う時間に変革したことも特徴的であった。

一方で、不登校については、ICT が進んでいる鴻巣市でも課題であると伺った。

ただ、人と関わる時間を確保するためには、フルクラウド化による校務支援システムを採用する必要性を強く感じた。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研
修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。